

「原罪論」の形成と展開——キリスト教思想の人間観

(中世研究 第 15 号)

上智大学中世思想研究所編

知泉書館 2021 年



【収録論文】

序文

佐藤直子

- 1 樹の実の誘惑と根源悪
——「創世記」と『告白』の物語りに拠る

宮本久雄

- 2 霊魂伝遺説と原罪
——テルトゥリアヌスの魂概念を手掛かりとして
津田謙治
- 3 アウグスティヌスの原罪論におけるオリゲネス伝承の受容と変容
出村みや子
- 4 アウグスティヌスにおける楽園神話解釈に基づく人間観の形成
——「嘘」の概念に注目して
佐藤真基子
- 5 ペラギウス派による原罪論批判の本質と女性観を巡る課題
——悪は「善の欠如」であるか？
山田 望
- 6 十一 — 十二世紀における原罪論の展開
——アンセルムスからトマス・アキナスへ
矢内義顕
- 7 ビンゲンのヒルデガルトにおける原罪論の射程
——『スキヴィアス』における原罪・墮罪の幻視を中心に
佐藤直子
- 8 トマス・アキナスの原罪論
——彼のキリスト教的人間観の一面
山口雅広
- 9 オッカムにおける道德の理論
——原罪論を起点として
辻内宣博
- 10 原罪から栄光まで
——十字架のヨハネの原罪論の射程
鶴岡賀雄